

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称： 悪性肝門部胆管狭窄への適切な内視鏡的ステント留置術の検討

研究の目的

悪性胆道狭窄は肝臓、胆道、膵臓の悪性疾患より胆道の狭窄・閉塞をきたす病態です。胆道の狭窄・閉塞によって胆汁の流れが悪くなるために起こる病態（黄疸）は、細菌感染による急性胆管炎発症の原因となり、時に生命に関わる場合もあります。そのため、黄疸を改善させるための治療（減黄治療）は極めて重要といえます。現在、悪性胆道狭窄に対する減黄治療においては、内視鏡を用いたステント留置が第一選択となる場合が多いのですが、解剖学的に胆管の形が複雑である肝門部領域においてはその方法について色々な検討がされています。今回、肝門部領域の悪性胆道狭窄に対する内視鏡的ステント留置の方法・効果・安全性を考察し、適切なドレナージ方法について検討することを目的とした研究を行います。

研究実施 実施許可日～2030年3月31日

期間：

対象となる方： 2022年3月～2025年2月までの期間で、当院で悪性肝門部胆管狭窄に対して初回の内視鏡的ステント留置術を受けられた方

利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

内視鏡的ステント留置術は胆道（胆管）の狭窄・閉塞に対して日常的に行われている治療です。内視鏡を口から十二指腸まで挿入し、胆管の出口である十二指腸乳頭からプラスチックもしくは金属製のステントと言われる管を入れ、狭窄・閉塞部分の胆汁の流れを良くするための治療になります。当院のカルテに記載されている情報のうち、年齢、性別、既往歴、抗凝固薬の有無、悪性胆道狭窄の原因疾患、病変の切除可能/非切除、肝門部狭窄の程度、内視鏡治療の際に使用したステント（本数、径、長さ、留置部位）、治療成績、偶発症とその原因について、標記研究課題実施のために利用します。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同

意いただけない患者さん / その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本件連絡先	附属病院消化器内科、血液内科、免疫内科 吉田健太 連絡先電話番号 0172-33-5111
-------	--